

**男女共同参画セミナー「無意識のバイアスを克服するために」**

**外してみませんか！ 無意識のバイアスの色眼鏡**

大坪久子（元日本大学・薬学部薬学研究科）

裏出令子（京都大学・複合原子力科学研究所）

無意識のバイアスをご存じですか？ 無意識の内に脳にきざまれた固定観念のことです。誰もが潜在的にもっています。対象は、ジェンダーだけにとどまらず、人種、宗教、民族、世代等々、あらゆる偏見に及び、その結果、社会の多様性・公正性・包括性（Diversity-Equity-Inclusion: DEI）を阻む原因となっています。これらのバイアスは、勿論、女性研究者のキャリアパスにも大きく影響します。残念なことに、そのベクトルはネガティブに働く場合が多いのです。

本講演は以下の2部構成で行います。

1. 無意識のバイアスの典型的な事例紹介とその歴史的な意義付け、女性研究者のキャリアパスを阻害する無意識のバイアスの具体的事例の紹介、それらのステップごとの日本と米国の比較、等についてお話します。さらに、女性研究者が持ちがちな「内在性のバイアス」についても触れたいと思います。そして、そのような無意識のバイアスをどうやって克服するのか、皆様とともに考えたいと思います。（担当：大坪久子）
2. 男女共同参画学協会連絡会 第5回大規模アンケートの自由記述回答に見られる無意識のバイアスの事例紹介：2021年10月から11月に実施された大規模アンケートの自由記述回答(3,719件)からは、日本の科学技術分野で女性研究者の進出を妨げている、身近によくあるリアルな無意識のバイアスの存在が見えました。代表的な事例を知り、バイアスへの「気づき」のきっかけにしていいただければと思います。（担当：裏出令子）

セミナー趣旨：

どのような人であっても全ての人が等しく機会を得られる社会であるのが当然ですが、残念ながら現実はそのようになっていません。機会均等を妨げている要因として、人々が無自覚に備えている「無意識のバイアス」というものがあります。「無意識のバイアス」は幼少期からの教育や進路選択、採用や昇進といった人事、成果発表の機会などさまざまところに影響していますが、「無意識」であるため自覚することが難しく克服することが困難です。

このセミナーでは「無意識のバイアス」の実態と、それを克服するために何ができるのかをお話ししていただきます。日頃から男女共同参画に関して高い問題意識を持って活動されている方も、ジェンダーによる差別を感じたことがなく男女共同参画の取り組みの意味がいまひとつピンとこない方も、皆様ぜひこのセミナーを聴いてください。また、「自分はそのような偏見はもっていない」、「自分が所属している機関では性差別は解消されていて問題はない」と安心していらっしゃる方もぜひご参加ください。

下記のウェブサイト・動画もご覧ください。

一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 無意識のバイアスコーナー

<https://www.djrenrakukai.org/unconsciousbias/index.html>



独立行政法人国立女性教育会館 大学等における無意識のバイアス研修プログラム

[https://www.nwec.jp/research/bias\\_program.html](https://www.nwec.jp/research/bias_program.html)



オーガナイザー：日本比較内分泌学会男女共同参画委員会

岡田令子（静岡大・理）、斎藤祐見子（広島大学）、清水宗敬（北海道大学）、松田学（近畿大学）、山口陽子（島根大学）